

別紙2

会議記録

会議名称	令和元年度第1回北本市立小・中学校通学区域審議会	
開会及び閉会日時	令和元年7月9日(火) 午後3時から午後4時30分	
開催場所	北本市役所 会議室3-E	
議長氏名	佐藤 豊明	
出席委員(者)氏名	山内 武、長谷部 務、醍醐 隆、諏訪 光明、赤塚 浩二、秋葉 清、佐藤 利彦、田島 和生、林 信好、石塚 富美江、西山 宏、佐藤 豊明、小川 和子、小澤 理絵	
欠席委員(者)氏名	無	
説明者の職氏名	教育長：清水 隆 教育部長：原口 穰 学校教育課長：坂口 修、学校教育課副課長：内田 浩子	
事務局職員職氏名	学校教育課主幹兼指導主事：木暮 克敏（書記）	
会議次第	1 開会 2 委嘱状の交付 3 教育長あいさつ 4 委員紹介及び事務局紹介 5 会長及び副会長選出 6 会長及び副会長あいさつ 7 諮問 8 協議 9 閉会	
配布資料	1 次第 2 諮問（写） 3 諮問に対する説明（写） 4 資料 1 北本市執行機関の附属機関に関する条例【抜粋】 5 資料 2 北本市立小・中学校通学区域審議会規則 6 資料 3 北本市立小・中学校通学区域に関する規則【抜粋】 7 資料 4 北本市立学校の適正規模等に関する基本方針 8 資料 5 北本市立小学校通学区域地図 9 資料 6 北本市立中学校通学区域地図 10 資料 7 北本市立栄小学校通学区域地図 11 資料 8 北本市立石戸小学校通学区域地図 12 資料 9 北本市立西小学校通学区域地図 13 資料10 北本市南小学校通学区域地図 14 資料11 令和元年度児童・生徒数一覧表 15 資料12 栄小学校在校予定児童数 16 栄小学校の今後のあり方に関するアンケート調査結果	

	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状の交付</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 委員紹介及び事務局紹介</p> <p>5 会長及び副会長選出 互選により会長は佐藤豊明委員、副会長は秋葉清委員を選出。</p> <p>6 会長及び副会長あいさつ</p> <p>7 諮問 資料に基づき説明。</p> <p>8 協議 ただ今、事務局から説明がありましたが、この件について、ご意見やご質問があれば発言をお願いします。</p>
議長（佐藤会長）	
山内委員	資料12にあるとおり、令和元年度の新入生が3名と仮に数年前から分かっていたならば、先に手を打つことはできなかったのか。
教育部長	昨年度は適正規模の基準を作ろうとした。昨年度の見込みでは3名ではなく9名いた。十数名の児童数ということは、少人数だからこそその児童一人一人へ行き届いた指導ができることである。栄小の児童の学力の伸びは大きい。9名には危機感を覚えたが、複式学級にもならないため、H30年度で基準作り、その後検討ということで予定通り実施した。1月で5名、3月で4名となった。3名は想像を超えていた。
佐藤委員	なぜ公団の子供は少なくなったのか。その原因をどう捉えているか。
学校教育課長	以前より小学校入学段階で若い世帯が持ち家を購入し、転出する家庭があった。
佐藤委員	持ち家を購入する家庭が増えたからというのであれば、北本団地ができたころから北本市内には家ができています。団地における人の出入りはずっとあった。子供が減った原因は、これだけではないのではないか。
諏訪委員	引っ越した6名は近隣の小学校の学区に転出したのか。
教育部長	4～5名は市内の小学校に在籍している。
長谷部委員	資料12について、数年先の児童数は住民台帳からか。つまり、転出があればさらに児童数が減ってしまう。6年後の32名は10名くらいになってもおかしくない。それは承知の上か。
学校教育課長	そうである。市教委が生年月日から算出した数となる。今後、転出も考えられるが、現状はお示しのとおりである。
山内委員	これまでの話を聞くと、やはり以前より分かっていたことなのではないかと考えてしまう。遠足などに行けるのかも心配である。
醍醐委員	数字の見立てが甘い。住民基本台帳上とおりにあるが、9名の新入児童が3名になった背景を把握して示しているのか疑問が残る。来年

	<p>度の入学予定者が他校へ通えるように打診をしていると聞いている。公団は持ち家ではないので、転出に歯止めがかからなく、栄小学校区が崩壊しかねない。そのようなことについてどう考えるか。</p>
<p>長谷部委員</p>	<p>1年生以外の転出はあるのか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>予想の数を出してほしいというのであれば算出するが、学校として現状の住民基本台帳から児童数を定め、検討の手順とすることとした。入学児童数に関しては、このとおりにはいかないと思っている。しかし、転入もあるので、現状の数を提示している。</p>
<p>小澤委員</p>	<p>子供のために民生委員・主任児童委員として親子共々楽しく通える学校を目指して活動していたが、去年から6～7名は今年度入学する未就学時がいたので入学を勧めたが、転出してしまった。引っ越しの際に、本音はなかなか言ってもらえないが、他校の新入児童数と比べると不公平感があるとの意見を聞いた。栄小を守りたいという気持ちもあるので、子供も保護者も地域も先生方も納得できる着地点があればよい。</p>
<p>議長（佐藤会長）</p>	<p>今回は、栄小学校の適正配置に伴う通学区域の見直しが大きな論点である。多角的な意見を求めた上で、今後について検討していく場である。できるだけ様々な視点から意見を求める。</p>
<p>石塚委員</p>	<p>入学前の保護者の感覚だと、保護者の友人関係で学校を決めたがる傾向にある。指定校以外に行きたい学校があれば、どうしたらその学校へ行けるかを模索している様子がある。学校や地域の力だけでは止めることは難しく、簡単に転出や指定校を変更しようとする現状がある。私が栄小学校の校長ならば、何とかして地域の学校を守ろうとするが、影響力のある保護者が栄小を選択することでもない限り、この動きは止まりにくいのではないか。このような会議があると、人数の少ない学校が統廃合に結びついてしまうような極端な意見に偏りがちなので、まずは適正化が第一かとも思う。</p>
<p>教育部長</p>	<p>栄小はよい学校である。少人数のメリットもたくさんある。力のある教員もたくさんいる。学年10数名の児童が本当に楽しそうに学校生活を送っている。学習面においても成果も見られているが、デメリットとなる児童の転出が多く、メリットが表れてこない。</p>
<p>林委員</p>	<p>栄小ができた当時は、1,100人を超える児童がいた。かつてグリーンハイツの通学区は、石戸小学校か栄小学校で議論された。当時は、川や道路が区切りとなるが多かったのが、栄小となった。これまでも様々な団体が若年層の転出防止について策を講じてきたが、結果として現状がある。このことを教育委員会はどう捉えているのかを聞きたい。</p>
<p>小川委員</p>	<p>公団地域は高齢者率が高い。一軒家ができていのに、北本の人口が増えないのは、北本市内を移動しているだけだからである。北本市内の若い世代は長く団地には住まないことが多い。将来的に子供が中学生になった時に、大人数の学校がよかったり、部活動を選べたりできたほうがよいので、大きな学校へ通わせたいと思うのでは。栄小はいい学校であるが、保護者は児童数・生徒数で考えてしまう。これからも公団地域の児童は減ると思う。</p>
<p>山内委員</p>	<p>スクールバスを使って、他校へ通うなどの案はどうか。栄小で少なくなった子供たちをどうするかを考えると、他校との吸収合併や西中学校の施設内に小中一貫という形で栄小を残すことも致し方ないのではないか。</p>

副議長 (秋葉副会長)	<p>学校区の見直しではないのか。通学区のみなのか。</p>
田島委員	<p>現実に子供が少ないのだから、今後、子供たちの教育をどうするかが重要である。今の1年生が学校生活に満足しているのか、保護者はどこの学校であれば満足なのかを考えていかないと議論に進展がない。南小・西小・石戸小が通える範囲にあるのだから、そこから議論すべきではないか。栄小を残す・残さないでなく、3人の新入生が小学生という味わいをもっているのか。通いやすい学校で能力が発揮できるところへ転校できるのか話し合ったほうが建設的である気がする。北本団地に住んでいても、市内の他の児童と同じような学校生活を送れることが大切なのではないか。</p>
赤塚委員	<p>資料12が衝撃的なので、そこにフォーカスしてしまうが、3人でも栄小を残すとすれば、それでもよい。ただ、適正規模を考えたという教育委員会の学級数や1学級当たりの児童数等の方針は適正なのかと考えるのがこの審議会なのではないか。何がよいかは人それぞれである。今後は栄小だけにとどまらない現象となるかもしれないので、適正規模とは何かをぜひ検証いただきたい。</p>
西山委員	<p>通学区域の見直しとして、南小・西小・石戸小から一部の児童が栄小に転入するということはあるか。</p>
教育部長	<p>可能性としてはあるが、他の地域から栄小へ転入しても、共倒れになることが考えられる。URにリノベーションなどの提案もしているが、回答がない状態である。その上で、現状に対して、適正規模はどうなるかをご検討いただきたい。</p>
石塚委員	<p>検証は、昨年度に1年をかけてパブリックコメントを勘案したもので、この場でやるべきではない。また、数字を見た時には、栄小における集団教育はできないであろうと考えたが、かといっていきなり適正規模に照らして、統廃合や栄小の児童を居住地で他校に振り分けるといったことは、単純にできない心情も理解できる。なので、疑問に思ったことを意見として出していただくとともに、現状を見直していくことに納得していただくことが必要である。ただ、近隣の他市町でも住民の感情論になり、計画が進まない要因となったり、保護者の考え方も変化してきていたりするので、まずはそれぞれの立場からたくさんのご意見をいただき、方向性を議論していくことはいかがだろうか。</p>
議長 (佐藤会長)	<p>時間も押し迫ってきたので、意見を集約して、3回の審議会の中で、次回には方向性を決めなければならない。</p>
教育長	<p>なぜ、今頃に通学区域審議会なのかとご意見はあるかと思うが、栄小の今後に在り方におけるアンケート結果があるので、ご説明差し上げた上で、加味していただくとありがたい。保護者や地域の意見を確認した上で議論していただきたい。</p>
学校教育課副課長	<p>(アンケートの)1ページをご覧いただきたい。アンケートの実施期間は5月10日から24日まで、対象者は現在栄小に通学している児童及び、校区に在住している0歳児から5歳児までとなっている。(3)に提出率を示しているが、兄弟関係がある場合、年長者の分のみの提出となっており、栄小に通っている児童の保護者からは79.7%未就学保護者は32.0%、全体としては66.3%の提出率だった。次ページの集計結果を見ると、学校規模の見直しを早急に考えてほしいといった方々が72.8%であり、非常に多い状況が見受けられる。着目してほしいところが、「同じ中学校区の小学校が併設する小学校へ統合してほしい」という意見の方33.3%、「通学区域を見直し、適正な児</p>

児童・学級数を確保してほしい」という意見の方が64.7%となった。教育委員会としては、「栄小学校を残してほしい」という意見が90%以上ではないかと考えていたが、33.3%の方が、「とにかく子供たちのために統合でもいいから、早急に対応してほしい」という思いがあることが見受けられた。設問の2の4・5ページは自由記述であり、いくつか抜粋したものだが、「適正化を早急に考えてほしい」と答えた方の理由が、「クラスの人数やクラス数が増えるため、多くの子供たちと学ぶ機会が増えるため」と回答しており、田島様がおっしゃっていたように、「子供たちのために」という観点では、保護者も同じ意見をもっている。他の保護者の意見としては、

- ・栄小学校の現通学区域が北本団地全域という型になっているので、その周辺に拡大するなど、通学区域の見直しで適正な状況に向かって検討するのが、現在通学している栄っ子のためになるのかなと考えます。
- ・児童・保護者が複数の学校から通学を希望する学校を選択できるようにしてほしい。
- ・運動会や修学旅行等の行事が現在の人数のままでは成立しないと考える。この手を打たない状況では、転出（転校）を考えざるを得ない。学区を見直しても、今さら通い慣れた学校から移ってくるとは思えない。統合については、早急に動いて欲しい。少数のメリットもあるが、同年代の友達がいない、少ないという状況は親としても不安。
- ・栄小は、校舎やプールも新しくきれいだし、できることなら、栄小学校区を広げ、栄小存続を希望しています。他の学校へ統合となると、公団地域と子供たちの交流も薄れていくのかという不安もあります。でも、親としては、通い慣れた校舎で学び、今まで歌い慣れた校歌を歌わせてあげたいという気持ちがある一方、他の学校の学区をけずって、人数の少ない栄小へ統合となると、他の地域の方の反対も多いのかなとも思うのか、難しい願いなのかとも感じます。その場合は、栄小の子供たちが他の学校へ行くという方向の方が、スムーズな流れなのかもしれません。栄小がなくなってしまうとなると、本当に残念ですが。
- ・同じ中学校区の小学校も同じように人数が減ってきていることや、距離的なことも考えると、隣接する小学校との統合を希望します。
- ・栄小学校の近隣のお宅の子供を「今後栄小へ行ってください。」となったら、反対が起こって、学校統合が進まないと思っております。
- ・栄小の子供たちは、人数が少ない分、学年を問わず、とても仲が良いです。でも、沢山の友達を作り、多くの事を学んだり、人数が増える事で、行事等も活発化したりすると思います。同じ中学校区の小学校も同じように人数が減ってきていることや、距離的なことも考えると、新設する小学校との統合を希望します。

となっている。ご一読いただければと思う。

小澤委員

私も保護者の方と同じような考えであり、できれば栄小を残してもらいたい気持ちもあるし、もし、統廃合を考えるのであれば、早く決めてほしいという思いもある。栄小学校の通学区域を変える場合でも、コミュニティとのつながりはそのままに統合してもらえればとも思う。

議長（佐藤会長）

様々な意見が出てきたが、栄小の実際のアンケートを加えていただいて、2回目以降の審議会でも考えていくことが大切であると考えている。その方向性を大切にしながら、内容を検討していく。

佐藤委員

北本団地は埼玉県内で規模縮小を考えている4つの団地の内の1つである。400～500世帯は減少すると見込まれる。他の団地で

	<p>は、空いた土地には公園や公共施設を作ってほしいと要望は出しているが、一般に売却しているほうがはるかに多いようだ。北本団地の規模が縮小された場合、そこにマンションが建つのかどうかなどはわからないが、すでに県内4つの団地のうち、3つには都市再生機構が着手しており、説明会が行われている。北本団地では説明会が行われていないので、数年先は本当に分からない。団地の高齢化が進んでいることに関しては、老人が増えるということであり、他地域で受入れてもらえないということの表れでもある。このような実情も勘案して、通学区を変えるにしても、統廃合をするにしてもよく考えていただきたい。</p>
議長（佐藤会長）	<p>本審議会の2回目は方向性を出して答申案を作成し、3回目は答申をするというのでよろしいか。</p>
委員	<p>（了承）</p>
議長（佐藤会長）	<p>いろいろ思うところはあるかもしれないが、本日の議事はこれで終了し、議長の座を解かせていただく。ありがとうございました。</p>
教育長	<p>栄小は団地の中にある学校で、一時期は1,100人を超える児童数であったにもかかわらず、現状としてはかなり減少してしまった。その原因は何かと問われても、回答が難しいことはよく存じている。しかし、このまま待っている訳にはいかない。今、栄小に通学している児童のためにも、楽しい学校生活を送れることを第一に考えないといけない。地域の方のご意見をよく聞いて、よりよいものとして通学区域というものを考えていきたい。審議会の回数も少なく、皆様にはご迷惑をおかけするが、ご理解・ご協力とたくさんのご意見を寄せていただければありがたい。次回もよろしく願います。ありがとうございました。</p>
副課長	<p>次回の会議は7月23日火曜日、午後3時からとなる。会場は市役所3階3-Bである。3回目の会議は8月6日となる。会場は市役所3階3-Eとなっている。3回目には答申を提出していただくことになっているので、よろしく願います。</p>
副議長（秋葉副会長）	<p>9 閉会 本日は、活発なご意見をありがとうございました。栄小の地域性を考慮して議論することが子供たちのためになるので、是非慎重に願いたい。本日はありがとうございました。</p>
学校教育課副課長	<p>以上をもちまして、令和元年度北本市立小・中学校通学区域審議会を閉会する。本日はありがとうございました。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。</p>	
<p>令和元年 7月22日</p>	
会長	<p>佐藤 豊明</p>